

### 協議に對する會社側の策謀

日本ペイント工場は  
総同盟の目標工場と

して既に一年程以前からオルグを潜へせしめ、以て、支部確立を目指し、組織活動を展開して来た結果、昨年末頃には既に五十八名の獲得に成功し、去る二月三日夜大阪聯合會の樓上に於て支部発會式を挙げ、次の通り支部幹事の選出を見た。

支部長 古久保音楠(常務委員) 副支部長 坂那峰敏夫(調合部)

會計部長 寒川カ(調合部) 調査部長 宇留島義夫(ワス部)

青年部長 鷗留国義(調合部) 連絡部長 榎並徳造(原料倉庫)

之に先立ち會社側は、組合側の組織活動が表面化するや大に警惕し直ちにその破壊工作に専念し、河村工場課長の畫策に基き先づ修養団めぐり會尚武會(在野會を後著の組織)の如き會社直屬団体を動員してひたすら組合員の切崩しに當らせ、支部発會式當夜の如きは出席者の足止め策として目星しき従業員約二十名は料亭に籠詰され、内七名は辛うじて脱出、會場へ馳せつけられたの由、或は又某通信社の某氏を通じて首腦者と目される五名の買収を試みたが失敗に終わったとも云はれており、等々會社側はその対策に並々ならぬ苦心を拂ったが支部発會式は遂に実現せられたのである。

かくて會社側は根本対策樹立の必要に迫られ、東京本社より同社労務政策の参謀長格たる三浦取  
売課長の下阪を求め會社陣營の強化を図る等、慌